



■2010年度_決算審査特別委員会（第2日目）（2011.09.30）

◎陣内泰子委員諸派2番目、市民自治の会の陣内です。

私は、2010年度予算審査のときに教育費にもっと予算をと指摘させていただきました。そこで、教育費、特に特別支援教育に関してどのようであったのかを今回お伺いいたします。実は2011年の第3回定例議会のときに、昨年度は特別支援サポーターが208人、メンタルサポーターが206人配置されていたのが、2010年度からは学校サポーターに一元化され、人数的にも310人と削減になっている。そういう意味で予算が減っていることを指摘しまして、影響はどうなっているのかと質問したとき、そのときの答弁では、低下しているとは思わないというような御答弁でありました。

そこで、この1年間を振り返ってみて、特別支援教育、特に学校サポーターの配置、メンタルサポーターの配置、人員配置についての実態をどのように認識されているのか、お答えください。

◎佐島指導担当部長 特別支援教育にかかわる、特に人的な支援のことについてお尋ねをいただきました。

先ほどお話がありましたように、学校サポーターということで、以前ありましたものから統合したという形で、学校に派遣する延べの人数としては減少したということから予算が減ったのではないかというお話でございますけれども、実質的に予算的に減額ということはなく、学校の配置の校数につきましても小学校は68校、中学校は33校とほとんどの学校にサポーターが行くという形になっております。その中でサポーターの種別にこだわることなく、ひとりひとりの子どもの状況に応じた支援ができるようになってきたというふうに思っております。

◎陣内泰子委員 今そのような御答弁であったんですけれども、年度末になるとサポーターが配置されない、また、学生で試験等があつて、年度末には来てもらえない、そんな声も聞いているんですが、こういう状況は教育委員会はどのように把握されていますか。

◎佐島指導担当部長 確かに学校の現状を見ますと、各学級に複数の特別な支援が必要な児童生徒がいて、学校サポーターの需要というのは非常に高いというふうに認識をしております。その中で十分に配置できているかと言われれば、やはりもっとさまざまな支援が必要だというふうに考えておりますし、また、学生である学校サポーターの都合によって行かれないというようなことがあるというお話も聞いていらっしゃるということですので、その部分につきましては計画的に子どもたちのことを考えて学校に来ていただけるようにということでお話をしているところでございます。いずれにしても、学校の執行状況が適正

に行われているかという状況をきちっと把握して有効にお金が活用されるようにしていきたいというふうに考えております。

◎陣内泰子委員 今有効に活用されるように、執行状況をきちんと把握するようにというお答えであったんですが、実は、決算で特別支援にかかわる人的な費用として支援員費、また学校サポーター費、ボランティア費として4,800万円が決算となっています。これに対する予算なんですけども、予算を見ても、私は先ほど予算も減っているよというふうに言ったんですけども、5,400万円、予算としては計上されているわけです。今計画的にというお答えだったんですけども、本当に残念なことに、需要が多い、希望も多い、また、教育委員会としても力を入れていかなければならない、この制度に対して1割程度が不用額になっている。このあたりの原因をどのようにお考えになっていますか。

◎佐島指導担当部長 学校サポーターにつきましては、特別支援サポーター、メンタルサポーター、また、昔の学校生活サポート員というような形での何種類かの派遣がございます。そういう中で、それぞれに、例えば児童生徒の状況が改善して配置が必要でなくなったとか、児童生徒が急に欠席するということがございますし、逆にサポーターのほうの都合で来られないというようなことも出てくるということでございます。先ほどちょっと申し上げましたけれども、そういう各校の執行状況を調査して、不用額が出そうな学校の予算を必要のある学校に回していくような努力もしておりますので、その辺をさらに続けて、執行率を上げていきたいというふうに思っております。

◎陣内泰子委員 ぜひ有効に使って活用していただきたいと思うんですね。それで、今22年度、この特別支援に関しては特別支援学級等をふやしているということなんですけれども、そのような中で通級に通う生徒たちも大変ふえていっています。通級の制度に関しては、結局なかなか学校の中でのサポートが十分でない。そのような中から保護者の方が通級を選んでいくという、そういう流れも一方ではあるのではないかと。また、個別の指導を望む声もある一方、そのような今の学級の中での、通常学級の中での支援、その強化が必要だという声もあるのですが、そこら辺についてのお考えはいかがでしょう。

◎佐島指導担当部長 特別支援学級の中でも情緒障害などにかかわる通級に通われているお子さんがございます。自閉症とか、ADHDなどの障害があるお子さんが、通常の学級の中で例えば自閉症のお子さんであると周りの音に反応してしまって学習に集中できないとか、いろいろな刺激がある中でADHDのお子さんが反応してしまうとかということがございまして、そういう中で場所をかえて通級指導学級の中でみずからをコントロールしていくというような学習を積み重ねることによって通常の学級の中でも学習が受けられるようになっていくというような、そういう成果もございます。

今後、これは教育委員会として特別支援教育を充実していく視点として、校内でそういう子どもたちに対してきちっと取り出し指導をして、そういう力をつけていくとか、特別支援教室の設置等も進めていく必要があるのではないかと考えているところでございます。

◎陣内泰子委員 今そうやって通級学級の活用、その意義の御説明があったわけですがけれども、私が思うに、通級に通い、でも、基本的には通常学級の中で、今部長もお答えになったように、円滑にコミュニケーションや学習ができる、それが目指されるということであるならば、通級に通っている子どもたちの今の在籍年数というのがどれぐらいになっているか。また、そういう調査をしているのか。また、通級に通っている子どもたちの担任が通常級への支援を具体的にどのように進めているのか。そういった調査なり、支援を行っているかどうか、そのあたりをお聞かせください。

◎佐島指導担当部長 通級指導学級に通っている児童生徒がどのくらいの期間通級するかというのは、これはもうひとりひとりの子どもの状況によります。基本的に通級指導学級に通うお子さんというのはその年度ごとに特別の教育課程を在籍校のほうで編成いたしまして、その年度について通いますよというような形でやっていくわけです。年度が終わったところで改善した場合に、通常の学級にそのまま通って大丈夫ということであれば、退級するお子さんもいると思いますし、卒業まで通級するというような状況になる場合もございます。通級指導学級の指導について在籍の学校で生かされるようにしていくということが大切だというふうに思っております。

◎陣内泰子委員 実は、港区で本当に学級の中にきちんと学習の支援の人がつき、そして、個別指導をしていくことによって2、3年でそういうサポーターが必要なくなる。また、不登校もそういう支援員がついた子どもたちが中学校に行っても不登校になるケースもない。そういった具体的なモデルケースがあります。そういう中で、今通常での支援が必要だということを部長もお話になられましたけれども、これからますます不登校の問題と発達支援との問題も非常に関係があり、そして、行政評価の中にも不登校の高尾山学園の中でも不登校の子どもが出ています。だからこそ余計個別指導が大切であるというような評価もなされています。そういう中で、一層取り出しではなくて、学級の中での個別指導を進めていく。それに当たっては、先日の代表質疑の中で教育長も発達支援の子どもが1,078人、中学生を合わせるならば、その1.5倍近くいるというような認識を持たれているのであれば、それに対しての個別指導、特に学校サポーターを中心とした配置をしっかりと組んでいただきたい。それに関しては特別支援教育ハンドブックにも書かれているように、国からの財政措置、1億4,000万円特別支援教育支援員費にきている。そのことをしっかりと使いながら、また個別指導を充実できるような体制をしっかりと組んでいただきたい。それについての教育長のお考え、そしてまた、教育長自身は特別支援教育課みたいな、特別支援をしっかりと進めていく体制も必要であるというお考えもお持ちのようですので、そのあたりも含めて、お答えをいただきたいと思います。

◎石川教育長 特別支援教育の現状から今後の方向性についてのお尋ねでございました。本市の教育基本計画であるゆめおり教育プランの中には、特別支援教育は重点施策の1つとして取り上げております。そこで、特別支援学級の増設や臨床心理士の増員といったソフト、ハード、両面での整備、充実を今図っているところです。障害のあるなしにかかわらず、個々

の子どもたちの能力や個性に応じた教育をさらに推進するため、教員及び支援人材の育成など、人的整備を含め、予算的な充実の必要性を強く感じてはおります。また、その仕組みや支援体制を強力に推進するための新たな組織の必要性も感じているところです。これは質問者がおっしゃったとおり、私もそれは感じているところです。いずれにしましても、今後も重点施策と位置づけて事業の推進を図ってまいりたいと考えております。